

南安曇近代教育の先駆者。自由民権運動を牽引。日本画家。

藤森寿平(ふじもり じゅへい)

とよしなしんてん
豊科新田出身

〈寿平が活躍した時代〉1835年(天保6年)～1905年(明治38年)享年69歳

天保6	安政5	3	4	5	明6	治7	9	10	11	13	14	22頃	34	35	38		
豊科新田に生まれる。	勤皇討幕の策源地京都へ行き、儒者山中静逸に入門する。翌年帰郷。	本藩知事へ提出。	学校設置の建白書を松本藩知事へ提出。	法蔵寺内に私塾「実践社」を開く。実践	学制発布	成新学校創設。学事掛になる。	自由民権運動が起ころ	豊科学校開校。首座教員(校長)となる。	西南戦争	安曇野ではじめて民権演説会が行われる。	大阪にて民権派政社の大会を開き、国会期成同盟を設立する。	法蔵寺にて国会開設社「奨匡社」設立。国会開設請願書作成。松沢求策を東京へ送る。	国会開設の勸諭	文人画家として越後東北へ絵画修行の旅に出る。	有明山神社天井絵を訪ね頼する。	有明山神社に出向き天井絵を制作する。	浅草の寺院にて、制作中に亡くなる。



藤森寿平の業績

- ①私塾「実践社」や武居用拙塾を開塾。成新学校、豊科学校の校長として教育に従事。
- ②国会開設請願運動のための結社「奨匡社」の運動に携わる。
- ③日本画家、詩人、歌人、俳人として多くの作品を残す。
- ④上・下鳥羽村、吉野村、新田村、成相村が合村した際「とよしな」と命名。

(1) 青年期の寿平

藤森家は代々庄屋を営む家柄でしたが、分家して父の代には質屋商を営んでいました。

14歳で父をなくし、家業を継ぐために商売の見習いに励む一方で、絵や和歌の習い事にも励みました。

24歳になったとき、絵の師匠である古曳盤谷から「京都では全国から人々が集まって、時代の流れの先頭を歩んでいる。京都で一流の学者の教えを受け才能を伸ばすことも大切である。きっと将来、役に立つはずである。」と勧められて、京都へ学問修行に出ました。絵画や学問の道を深めながら、儒学者、画家、歌人、漢学者、医学者との交流は寿平の思想、行動に大きく影響を与えました。

(2) 安曇野教育の源流をつくる

明治政府が「学制」を公布する2年前の明治3年、松本藩知事へ学校設置の建白書を提出しました。明治4年には、法蔵寺内に、高遠の高橋敬十郎(白山)を塾長に招き自己資金を投じて「実践社」を開塾しました。時代の流れをいち早く感じ取って、新しい世の中に生きる人々をどのように教養育てるかについて考えていたのです。

明治6年には、法蔵寺本堂に官制の成新学校が開校し、寿平が学事掛(校長)になりました。寿平はその変則科として塾長に武居用拙を迎え、実践社の路線を継ぐ武居用拙塾を設けました。官の制約を受けない自由な討論を核とした青年教育が行われ、松沢求策、今井五介(のちに片倉組を経営)、降旗元太郎(のちに松本で普選運動で活躍)らも学びました。



法蔵寺(豊科新田)

(3) 自由民権運動を牽引

寿平は、武居用拙から民権論の講義を受けながら、自由民権運動、国会開設実現への思いを高め、自ら運動に加わり積極的に活動しました。

明治11年に安曇野ではじめて法蔵寺本堂にて民権演説会が行われ、多くの老若男女が訪れ大成功をおさめました。その後も演説会が多く行われ、松沢求策も弁士として立ちました。

「民権の宋(先駆者)」として、安曇野の一揆の指導者であった多田加助に注目しました。民権思想の普及のため加助のお芝居をつくって上演したり、加助の貞享義烈碑を武居用拙に頼んで書いてもらったりしました。その碑は貞享義民社に今も残されています。

武居用拙塾は長野県の国会開設運動の本部として多くの町村会議員、町村長、新聞記者などが出入りする場所となりました。明治13年には、国会開設政治結社奨匡社が誕生し、武居用拙指導のもと『国会開設請願書』が作成されました。

(4) 文人画家として

寿平(雅号:桂谷)の画法は幅広く、仏画、天井絵、戯画、扁額絵などがあります。作品数は南北安曇だけでも約300点。松本、東北地方に現存しているものを加えると約500点にもなります。

寿平の絵画は個人所有のものが多くですが、有明山神社神楽殿の天井絵に寿平の作品を見ることができます。

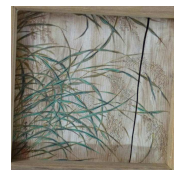
寿平は、有明山、有明山神社に強い思いを寄せていて、有明山を題材にした作品を多く残しています。



橋本雅邦作「カラス」



有明山神社神楽殿天井絵



桂谷作「稲穂」



桂谷作「桃」

【参考文献】

- 安曇野市HP「安曇野市ゆかりの先人たち」
- 「師表の人 藤森桂谷ものがたり」藤森桂谷没後百年記念事業実施委員会
- 「夜明けの鐘 桂谷 藤森寿平小伝」中野正實
- 「安曇野文化(第8号、第9号)」安曇野文化刊行委員会
- 「安曇野文芸(第6号～第9号)」安曇野文芸の会
- 「藤森桂谷の生涯」南安曇教育会